

きらめき

佐久市立平根小学校
令和5年3月3日(金)



No.41

ありがとうの気持ちと感謝を胸に

今週、3月3日は、6年生を送る会がありました。先週からどんなメッセージを伝えようかと、みんなで考えました。6年生一人ひとりの素敵なところを思い出し、タブレットのスライドに打ち込み、撮影して動画にまとめました。1年間、学校全体のリーダーとして活躍してくれた6年生へ、自分たちの思いが伝わった会となりました。今度は自分たちも5年生となり、学校を本格的に支えていく番です。いざ出陣ですね。動画はクラスルームにアップしているので、お子さんに見せてもらってください。

先週に続き、先人の努力を知る社会の授業

3月6日の習には、熊本県山都町の学芸員の方と meet をつないでオンライン授業を行いました。川に囲まれた谷の白糸台地に、当時の人々はどのように水を引いたのかを学習してきました。ただ、教科書やインターネットだけでは分からないことだらけだったので、実際に山都町の方とつないで話を聞いてみたいという意見がありオンライン授業を行いました。初めて知ることや、調べただけでは分からないことが次々に分かり、しばしば教室内から歓声が上がりました。

その学習に引き続き、長野県でも同じように地域の発展に尽くした人がいることを学習しました。「等々力孫一郎（とどろきまごいちろう）」「捨ヶ堰（じっかせぎ）」について調べ、安曇野市の大地に水を引き、米作りが盛んになるように用水路を作ったことを知りました。他にも、長野県にはたくさんの人のために努力した人がいることを調べて知ることができました。先人たちの偉大な努力で、今の私たちが豊かに生活できていることを実感していました。

伝統工芸品の学習をしましたが、実際に手に取って見る機会がなかったため、飯山市伝統産業館に連絡したところ、伝統工芸品である内山紙（うちやまがみ）（和紙）を学校の予算で購入することができました。木曜日にみんなでその和紙を見たり触ったりして、習字の半紙とどう違うのか、この紙の良さは何かを考えてみました。国語でも2学期に「世界にほこる和紙」という単元の学習を行っています。洋紙との違いや作り方の違いを学習して知ってはいますが、実際のもので手に取って比べてみることで、よりその和紙の良さを実感することができます。子どもたちは、和紙の名刺に自分の名前や好きなものなどを書きこみ、大切にしていました。また一つ、学びが深まった瞬間でした。

